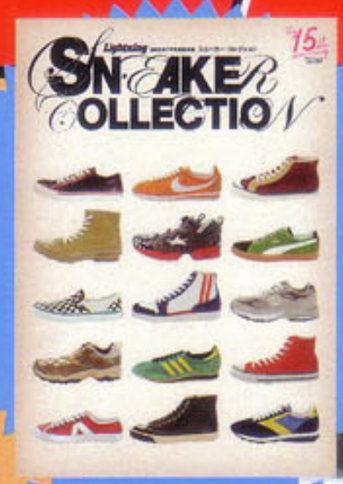
巻末特集／ファッションから雑貨まで、10年使える愛用品、それぞれの主張。

ライトニング 7月号 第16巻 第7号 2009年7月1日 毎月1回1日発行

Lightning ライトニング

2009 Vol.183 7月号 特別定価 ¥680



別冊付録
「スニーカー・コレクション」付き!!
一冊まるごと
新旧スニーカー。

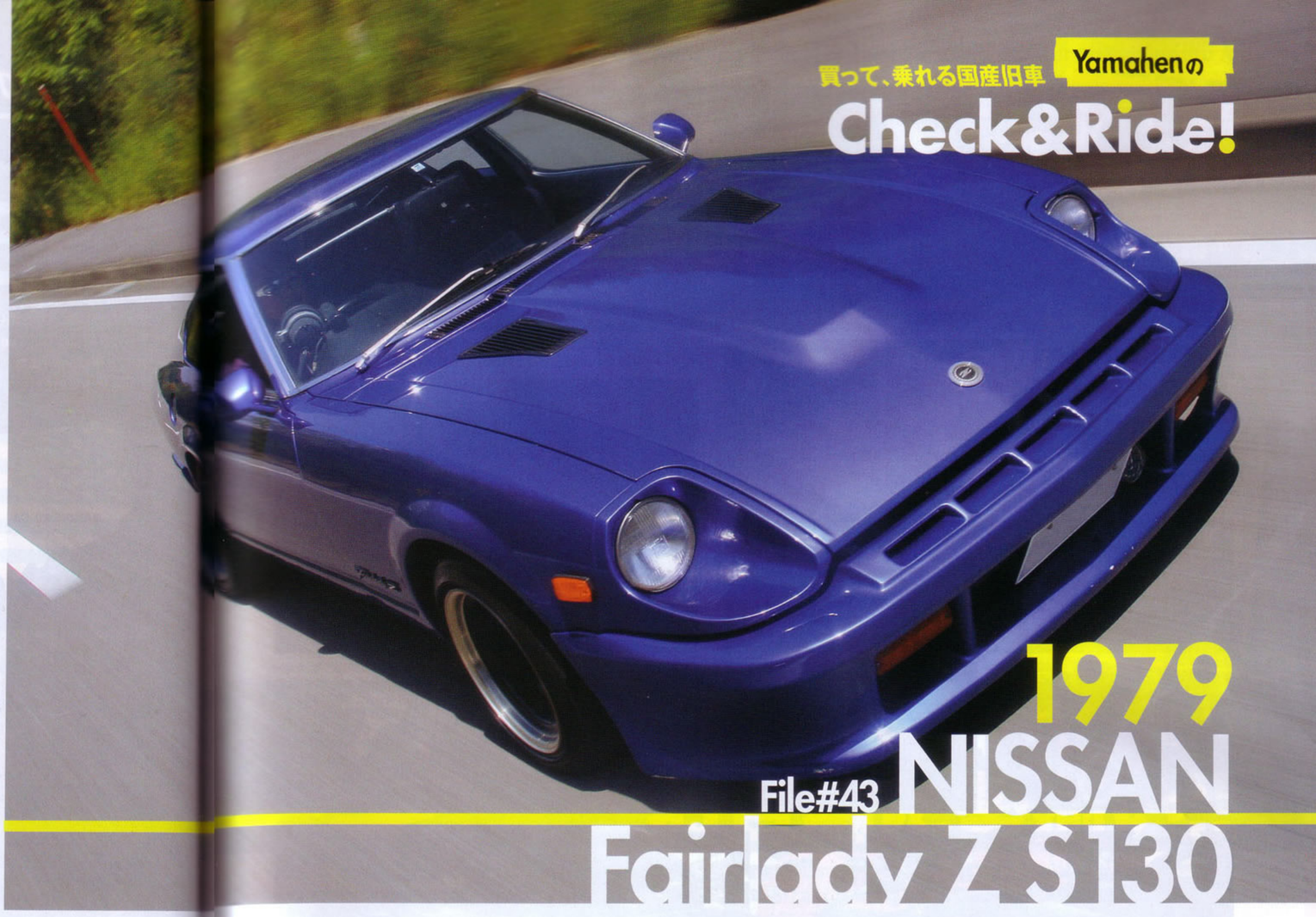
特集
モノ作りに携わる人たちが口を揃えて言う。

スタイルもデザインも1950年代がいま、いちばん熱い。

第二特集
夏の主役はやっぱりTシャツだ。

買って、乗れる国産旧車 Yamahenの

Check&Ride!



File#43 1979 NISSAN Fairlady Z S130

エキゾチック2シーター 今130人気が上昇中。

国産旧車の王道をいく名車
歴代フェアレディZの中で
今2代目が注目されているという。
大柄でアメリカンな雰囲気の
ソレ、タコ、デュアルに乗ってみた。

text/K.Yamazaki 山崎和彦
photo/A.Hirano 平野　陽
取材協力/ロッキーオート

旧車好きの間で"Z"と言えば、それはニッサンのS30と呼ばれる初代フェアレディZのことだ。熱烈ホンダZファンには申し訳ないがこれは周知の事実。で、そんな旧車の王道をいくZの系譜が、6代目となる現行モデルまで長期に渡ってずっと引き継がれていることもまた、多くのクルママニアが知るところである。そんな伝統に包まれた名車、フェアレディZの歴代モデルの中で、最初にフルモデルチェンジを受けたのが今回ここに登場の2代目、S130型と呼ばれるモデルだ。

もともとZが誕生した背景には、アメリカにおけるスポーツカーマーケットの存在が大きく影響していた。当時巨大なV8を搭載したマッスル系の重厚でスポーティなアメリカ車がガオガオと突進する一方で、ヨーロッパ、主にイギリスを中心とした小型でライトなスポーツカーもしっかりとマニアックなアメリカンの心を捉えていた。そのマーケットの将来性に注目したニッサンが、より高性能でリーズナブルなスポーツカーを目指して開発、完成させたのが初代Zである。もちろんそれは大成功を収め、国内外を問わず数々のZ神話を生んだのである。

そんな誰もが認めるサクセスストーリーの原点となったモデルの、ネクストジェネレーションが1978年8月に産声をあげた。初代のチャームポイントであったロングノーズ&ショートデッキというデザインコンセプトはそのままに、ややワイドになったボディは、よりストレートなラインを強調したエッジシェイプなものへと変貌を遂げた。そんなS30から130への変化に対する当時のユーザーの声は、やや批判的なコンサバティブなものと、喜んで新しいものを高く評価する前向きなものとに分かれたようだ。

さて、今旧車ファンの間で急にS130熱が上昇している傾向にあるという興味深い話を聞いた。もちろん基本的に旧車の王道をいくZは常に人気が高いのだが、ここにきてあえて130を探す旧車好きが増えているのだという。そこで早速その嬉しい情報の発信元である岡崎のロッキーオートで、在庫の1台を試乗させていただいた。2・8リッターにソレックスφ44というお約束チューンで楽しむZフィーリングは例によって楽しいの一言。確かにS30に比べて、ハンドリングも含めた大らかな印象はS130ならではのアメリカナイズされたテイストであった。今ならまだリーズナブルな価格で探せるS130だが、パーツ類に関してはけして豊富ではないという。内外装に関しては、ともすればS30よりも入手が困難なものも多いということなので、気をつけたいところだ。手を入れればまだまだ元気に旧きよきスポーツカーマインドを満喫できるS130Z。モディファイしていく上での車体剛性を考え、あえてTバールーフではないボディを捜しているニッチなファンにお薦めの1台だ。

↑バンパー一体型のフロントスポイラーが濃いキャラを演出している。軽量化にもつながっているという

↑お約束のワタナベ製15インチホイールにもボディと同色のペイント。オフセットも絶妙に合わせている

↑前後に車高調整式ショックを装着し、Zならではのやや前下がりの戦闘態勢を演出する。直6を飲み込んだ長くシュッと伸びたこの精悍な面構えこそZファンの心をビシビシと刺激してくる原点だ

↑よく整備されたL型は心置きなく床まで踏める。ことエンジンに関してのメインテナンスは、純正を含めた様々なパーツも多く存在するので心配いらない。ハイパーなキャブ車の魅力は踏んだ者にしかわからない！

←ワイドなボディの極端に離れた位置にレイアウトされた丸型2灯ヘッドライトが、とても小さく見える

←フルモデルチェンジとはいえ、初代Zの印象は随所に受け継がれている。テールレンズのデザインもそのひとつ

←ダッシュトップのヒビはないものを探すのが難しいというのが現状だが、もちろん予算に応じてのレストアは可能である

↑直6の2.8リッターのキャブ車をガオガオいわせるだけで、そこには脱日常的快感が存在する

↑直線的なデザインを随所に施したのもS130の特徴。当時は近未来的な印象を受けたものだ

↑あえてS130をレーシーに仕上げたいユーザーにはかなり魅力的な1台。走り込みながら、好みの足周りにセットアップするのは楽しい作業だ

←やっぱり6気筒は回転を上げなければ面白くない。気がつくと夢中になってタコメーターを躍らせてしまう

Yamahenの 実際どーなのよ！

あえて130を探しているマニアへ。

国産旧車の世界でZといえば、S30が王道とされているのは事実。でも後継となったS130には同じZでもまた違ったテイストに満ち溢れている。アメリカのマーケットを狙ったがゆえに変化したやや大柄な印象のボディも、今の感覚で見るとやけにカッコいい！　族っぽくではなく、走り屋仕様にきっちり仕上げるのがポイント。

まだまだL型はいじれるぞ！

ニッサンの名器、L型エンジンは今でも旧車ファンのために数々のチューニングパーツが流通している。130の素晴らしいところはなんといってもボンネットの中が広いこと。「コリャV8でも入りそうだ！」とアメリカ車好きが喜んだとかいう噂もあるほど。キャブ、インジェクション、ターボと、お好きなメニューでやっつけよう！

今ならこの値段で買えます。

車両本体価格は102万9000円、登録諸経費は約20万円ほどということなので、Zで旧車にのめり込むにはリーズナブルな状態といえよう。もちろん現状でも2.8リッターのトルクフルで気持ちのいい加速と長〜いノーズを振り回す"あの"感触が堪能できる。

楽しい旧車をプロデュース。

Rocky Auto（ロッキーオート）
〒444-0865
岡崎市明大寺大切55-31
TEL0564-58-7080
www.rockyauto.co.jp

東名高速の岡崎インターチェンジを降りて5分という、関東からも関西からもアクセスが可能なショップ。絶版車をオリジナルに忠実にレストアする高い技術を持ちながら、あえて今のニーズに合わせたコンセプトで"楽しい旧車"をプロデュースする。